

# 「ウッドデザイン賞2018」 受賞作品一覧

## コミュニケーション分野

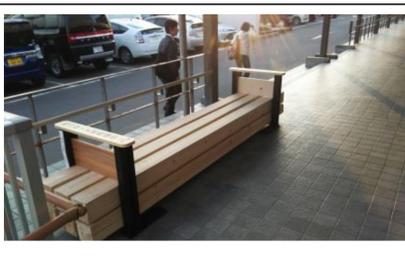
### ライフスタイルデザイン部門

受賞作品名	受賞団体名（主たる応募者、共同応募者）	サブカテゴリ	受賞作品の概要 ※受賞者提供情報に一部編集・加筆等をしています	写真
大川TATEGUMI	大川建具事業協同組合 大川TATEGUMI（福岡）、一般財団法人大川インテリア振興センター(福岡)、大川建具事業協同組合(福岡)	イベント・ワークショップ（単発）	木工産業が集積する大川建具事業協同組合の有志が取り組む次代の「建具」を考えるプロジェクト。職人と建築家が直接つながるチームを編成。全4つのチームがそれぞれの叡智を集めて、建築家が「描いた形」を職人が「モノ」にし、プロトタイプとして仕上げた。福岡市内の展示会で発表し、新しい可能性を示した。	
LOOP TREE	河内長野市立林業総合センター kinkonkan-木根館（大阪）、大阪府森林組合(大阪)、graf(大阪)	イベント・ワークショップ（定期開催）	大阪のクリエイティブユニットであるgrafと協働し、地元「大阪」の木である「おおさか河内材」を使うこと（地域材活用）で、暮らしに木を取り入れ、森を感じてもらおう企画。触れて体験でき、森を守ることにつながる木工ワークショップを中心に、地域の食材や雑貨を販売するマーケットを開催することで、幅広い層にも周知。	
朝倉災害復興支援 あさくら杉おきあがりこぼし展	朝倉災害復興支援あさくら杉おきあがりこぼし実行委員会（以下全て福岡）、九州大学芸術工学部、西日本工業大学デザイン学部、株式会社インデックスプラス、若林ビジネスサポート、トポスデザイン株式会社	イベント・ワークショップ（定期開催）	被災したあさくら杉からおきあがりこぼしの原型を作り、アーティストやデザイナーが自由な発想で表現した作品を展示・販売して、その利益を朝倉市に寄付するプロジェクト。	
「内装木質化ガイドブック」の制作による木のある空間の普及・啓発	(一社)日本木造住宅産業協会（東京）	普及・啓発（ツール・メディア）	施設においては、建築基準法や消防法の規制が複雑であり内装の木質化が求められる場合がある。内装木質化にこれから取り組む設計者・発注者向けに、施設のジャンルごとに法令のポイントと事例をまとめた「内装木質化ガイドブック」を発刊した。当協会のHPでも全ページ公開し、木質空間の普及・啓発を行っている。	
木のブランド価値を表面化させる「木材産地証明書」の取り組み	タマホーム株式会社（東京）	仕組み・ネットワーク（生産・加工・流通・販売をつなぐもの）	住宅建築をする際に建主に対して、使用した木材の生産地を部位ごとに明記した証明書を発行する。優れた木の市場価値を上げ、建主に価値ある物を所有する事を伝え、広める為に木材産地証明書を発行しブランドの確立を図った。優れた物を供給する人の努力に報いると共に、購入した建主の試算価値にも貢献する。	

### ハートフルデザイン部門

ひろもくデザインアワード	一般社団法人広島県木材組合連合会（以下全て広島）、広島工業大学建築分野における木材利用研究センター、広島県木造住宅生産体制強化推進協議会	イベント・ワークショップ（定期開催）	広島県産材など地域材を活用した住宅、ベンチなど、建築物や施設の木造・木質化の取組を促進するため、「広島の木」を使ったベンチ等のデザインプランを県民に公募し、優秀作品の表彰やベンチ試作品の展示とともに、製作されたベンチの県内公共施設等への寄贈展示により広く県民への木材利用促進キャンペーンへ活用。	
Forest on the Sea	NPO法人もりずむ（三重）、SAKUWOOD認証協議会(東京)、LEI SURF DESIGNS(神奈川)、株式会社 Andeco(大阪)	仕組み・ネットワーク（生産・加工・流通・販売をつなぐもの）	国産材が従来使われていない、高品質が求められる嗜好品に国産材を使うことで、品質の高さが見直されて国産材の再評価に結びつけることを狙いとする。今回、「サーフィン練習用スケートボード」を杉材で作し、木目の美しさ、粘りなどの特性を再認識して杉材の普及拡大を図る。対象者はマリン等スポーツ愛好者。	
自由学園男子部 80年の木の学び	学校法人自由学園男子部（東京）	教育・研修システム	自由学園男子部では、68年前に当時高校生だった先輩たちが埼玉県飯能市の学校林に植えたスギを代々に渡って生徒が山に入り手入れをしてきた。中学1年は教室で使うための木製の机と椅子を生徒が自分で作り、高校3年の卒業まで6年間使う取り組みを開学以来約80年続けている。生徒たちの「木の学び」を大切にしている。	

受賞作品名	受賞団体名（主たる応募者、共同応募者）	サブカテゴリ	受賞作品の概要 ※受賞者提供情報に一部編集・加筆等をしています	写真
<b>ソーシャルデザイン部門</b>				
新木場海床プロジェクト	新木場海床プロジェクト（以下全て東京）、榎戸材木店、新木場相原あいはらの木、瀧口木材(株)、(株)ZNEM、光風舎一級建築士事務所	イベント・ワークショップ（定期開催）	東京江東区、新木場地区は木材の流通基地として運用され、海には丸太が浮き、世界の木材が集まってきた。だが、最盛期には700程度の材木関連業種があつまったこの町も、いまでは海から丸太が消え、木材業者も減少している。このプロジェクトは海を含めた新木場に新たな木のある風景をつくるプロジェクトである。	
川上村木匠塾	川上村木匠塾20周年記念事業実行委員会（奈良）、川上村木匠塾(奈良)、川上村(奈良)、川上村木匠塾OBOG会(奈良)	イベント・ワークショップ（定期開催）	川上村木匠塾は1998年に関西圏の大学や専門学校が中心となり、学内だけでは学び得ない林業のあり方や、木を用いた建築やプロダクトなどの設計施工を通じ、木材・建築・ものづくりを深く考え実践してきた教育プログラム。これまで延べ約1400名の学生が参加し、2017年度には20周年を迎えた。	
徳島文理小学校「木育教室」	Wood Action（以下全て徳島）、株式会社フォレストバンク、株式会社那賀ウッド、今川木材有限会社、富永ジョイナー有限会社、徳島文理小学校	イベント・ワークショップ（定期開催）	2016年より徳島文理小学校3年生を対象に「木育教室」を実施。木育活動（森の機能・循環、環境保全の重要性、木製商品ができるまでを伝え、木工体験）を行うことで、木を使う意味を啓発する。また、川上～川下の若手木材産業従事者との交流から、木材産業従事者の社会的地位の向上と未来の担い手確保につなげていく。	
地域産木材を用いた、ときがわ方式の公共施設整備	埼玉県ときがわ町（埼玉）	普及・啓発（システム）	埼玉県ときがわ町では、地域産木材を積極的に利用した公共施設の内装木質化に取り組んでいる。特に鉄筋コンクリートの学校施設のリフォームで施工される内装木質化は「ときがわ方式」と呼ばれ、その手法が注目されてきた。近年は公民館の内装から学校の学習机まで、きめ細やかな木材利用を推進している。	
森林ボランティアサークル「森なかま」による活動	森なかま（京都）	普及・啓発（システム）	日本一森林に関心のある学生が多い大学にすることを目標に、京都府立大学生命環境学部附属演習林での森林整備と、得た材の利用という活動を軸として始まった。文系・理系両方の学生が所属し、現在17年継続している。森林・整備・木材のもつ役割を学び、学んだ魅力を大学外の方々にも発信する活動を行っている。	
NAKASU TENJIN WOOD MAP	麻生建築&デザイン専門学校（福岡）	普及・啓発（システム）	多くの人に木の良さを知ってもらい、木に興味・関心をもってもらうことを目指し、街で使われる木質空間のMAPを作成した。これまで福岡県の博多地区のMAPを作成したが、今回は第三号として福岡の天神地区のMAPを作成し、利用して頂くことで、木の良さを伝えていきたいと考えている。	
「南房総千倉CLT収納庫」プロジェクト	弁護士法人匠総合法律事務所（東京）、岐阜県立森林文化アカデミー（岐阜）	普及・啓発（ツール・メディア）	本プロジェクトは、CLT構造の建物を実際に建築することを通して得た知識、経験、ノウハウを施工業者・設計者・行政等に広く伝え、CLTの普及、ひいては日本の林業再生や地域工務店の将来の仕事確保、木造建築物の担い手育成を目的としている。	
旅するランバー・トレイン ー子どもと旅する木の列車ー	一級建築士事務所なかおデザイン室（千葉）、一條ランバー株式会社（東京）、株式会社佐野製材所(静岡)	普及・啓発（ツール・メディア）	木育活動を活発に行う新たな基盤としてランバー・トレインは開発された。列車の外観をした用途の異なる複数の空間を設けることで子供たちに多様な体験をしてもらうことができる。子供への木育を通じて、木にまつわるモノやヒトを巻き込みながら、自然と人間の持続可能な新しい関係性を探するためのプロダクト。	

受賞作品名	受賞団体名（主たる応募者、共同応募者）	サブカテゴリ	受賞作品の概要 ※受賞者提供情報に一部編集・加筆等をしています	写真
「平家の里」ふるさと創生事業と「囲炉裏&薪ストーブのある暮らし」設計デザインコンテスト	平家の里「炭焼き・薪クラブ」ロスコ・らしさ研究所（大阪）	プロモーション（定期開催）	住宅の新築、リフォームにおいて「囲炉裏」「薪ストーブ」を設置された（する）物件の設計・デザインと暮らし方を審査し、表彰することによって、森（特に雑木林）の荒廃を防ぎ、かつて村の生業であった「炭」「薪」の需要を喚起する。併せて村と街の交流を促進する他の事業にもつなげる。	
徳島県の体験型施設「TurnTable（ターンテーブル）」	株式会社フォレストバンク（徳島）、株式会社Turn Table(徳島)、株式会社ゲンボク(徳島)	ビジネスモデル	徳島の食材を用いたレストラン・バル、宿泊施設、マルシェ、交流スペースの4つの機能を併せ持つ「体験型施設」。建物には徳島県産の石材、木材を使用している。「モノではなくヒトからの情報発信へ」をテーマに、あえて徳島の看板は出さず、食や宿泊の体験を通じて徳島の魅力に共感してもらうことを目指している。	
みかわてらす	矢掛町（岡山）、神家昭雄建築研究室(岡山)、株式会社電通テック(東京)	仕組み・ネットワーク（生産・加工・流通・販売をつなぐもの）	山村振興のために地域の方で組織された「みかわてらす」が、地域資源を活用したピクルス等の加工場とカフェ、ギャラリーを空家であった古民家を再生して活動拠点を整備することにより、持続可能なコミュニティ形成が図られるとともに、基幹産業の農業の活性化、地域住民の所得の向上、雇用の確保を生むために整備した。	
サプライヤーと実現する、木材調達ガイドライン	積水ハウス株式会社（大阪）	仕組み・ネットワーク（生産・加工・流通・販売をつなぐもの）	木材調達ガイドラインは、伐採地の森林環境や地域社会の持続性に配慮したオリジナルのフェアウッド（定義は国際NGO提唱による）調達指針である。国際環境NGOを通じた現地環境の正しい把握を前提に、この取り組みをサプライヤーと共有し合法性意識を共にすることで、上流から下流まで一貫した調達体制を構築する。	
未利用間伐材を活用した、輸送用パレットKyo Pallet®の製造開発販売プロジェクト	エースジャパン株式会社（京都）	仕組み・ネットワーク（生産・加工・流通・販売をつなぐもの）	京都産の未利用間伐材を利用した輸送用パレット（Kyo Pallet®）の開発・製造・販売を通して持続可能なリサイクルシステムを確立し、荒廃した森林の再生を目指している。京都府森林組合連合会、京都モデルフォレスト協会等と連携して間伐材を確保し、製造業や倉庫業、運輸業など幅広い市場を対象としている。	
全国47都道府県から森林認証材の供給体制確立	ナイス株式会社（神奈川）	仕組み・ネットワーク（生産・加工・流通・販売をつなぐもの）	全国47都道府県における行政担当者や素材生産業者などに働きかけ、森林認証材の取得を促進し、全ての都道府県から森林認証材の調達ルートを確立した。この事により、全ての都道府県において地域材を活用した住宅、非住宅物件への認証材の供給が可能となった。	
国産材利活用拡大に向けたウッドソリューション・ネットワーク設立・活動	ウッドソリューション・ネットワーク（東京）	仕組み・ネットワーク（生産・加工・流通・販売をつなぐもの）	本ネットワークは、農林中央金庫の寄付により、東京大学に設立された「木材利用システム学寄付研究部門」と、「木材に関わる27の関連企業・団体（=会員）」との連携を通じて、木材利用拡大に向けた各種課題の解決を目指す『産・学・金のプラットフォーム』。事務局として、農林中央金庫が運営を担っている。	
はしらベンチプロジェクト	NPO法人 西川・森の市場（以下全て埼玉）、有限会社創林、有限会社小峰材木店、早野材木店、西川バウム合同会社	仕組み・ネットワーク（生産・加工・流通・販売をつなぐもの）	製材所に積み天然乾燥をしている木材を使ってベンチにする。街中において天然乾燥をしながらベンチとして使い、6か月程度の期間で、新しい生材と交換し、乾燥した材は住宅の部材として使う。街の人に本物を感じてもらい、山の人に木材利用の可能性を感じてもらおう。その懸け橋となるベンチである。	

受賞作品名	受賞団体名（主たる応募者、共同応募者）	サブカテゴリ	受賞作品の概要 ※受賞者提供情報に一部編集・加筆等をしています	写真
デジタルファブリケーションによる自律分散型生産ネットワーク	VUILD株式会社（神奈川）	仕組み・ネットワーク（生産・加工・流通・販売をつなぐもの）	これまでの「中央集約型の儲からない林業」から、「持続可能な自律分散型の林業」への転換を図るべく、①デジタル加工機Shopbotを全国に普及し、②デジタル技術を扱うことのできる人材を育て、③共有して加工販売できる設計雛形を構築し、④これら生態系全体のネットワーク構築を行うものである。	
木育推進拠点『姉妹おもちゃ美術館』を作る	認定NPO法人芸術と遊び創造協会（東京）、国頭村（沖縄）、長門市（山口）、由利本荘市（秋田）	その他	地域課題解決を目指して、「森林活樹」、「地域活性化」、「木育交流」をコンセプトとした「長門おもちゃ美術館」と「鳥海山木のおもちゃ美術館」が今年度開館。鉄道、船舶の交通インフラ体型の木育構想を自治体・地元企業・地元NPOとの連携により構築。今後10館ほどに広がる「姉妹おもちゃ美術館」を紹介していく。	
にいみ木にかかわりピトプロジェクト	にいみ木のおもちゃの会（岡山）	その他	新見市の森林占有率は87%であるが、木材や林業に対する市民の関心は低い。木のおもちゃを切り口とした「木育」を幅広い世代に展開していくことで、地域活性化を図りたい。林業、観光、商業、教育、福祉、医療等の各分野における循環型の地域振興の在り方を具現化させ、次世代につないでいきたい。	